

まちづくり交付金 事後評価シート
秋田駅周辺地区

平成21年12月

秋田県秋田市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	秋田県		市町村名	秋田市		地区名	秋田駅周辺地区			面積	73.9ha		
交付期間	平成17年度～平成21年度		事後評価実施時期	平成21年度		交付対象事業費	2,795百万円	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 高質空間形成施設(秋田駅東西歩道橋西側昇降口整備事業)、土地区画整理事業(秋田駅第三地区)										
		提案事業	まちづくり活動推進事業(まちづくり市民活動育成・支援事業)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名 なし										
		提案事業	削除/追加の理由 なし										
	新たに追加した事業	基幹事業	高質空間形成施設(駅前広場連絡通路整備事業) 土地区画整理事業(秋田駅西北地区)			高質空間形成施設:魅力的な駅東口の実現のため 土地区画整理事業:土地区画整理事業の推進のため			高質空間形成施設:駅東口の賑わいに関する目標及び指標を追加 土地区画整理事業:土地利用の利便性向上に関する指標を追加				
	提案事業	地域創造支援事業(市民交流促進事業、秋田杉街並みづくり推進事業) 事業活用調査(事業効果分析調査) まちづくり活動推進事業(秋田駅周辺地区低未利用地開発検討事業、雪生活支援事業)			地域創造支援事業:駅周辺の賑わいづくり及び個性あるまちづくりの推進のため 事業活用調査:事業効果の分析を行うため まちづくり活動推進事業:県都の玄関口にふさわしい市街地環境を整備誘導するため。また除雪機械を町内会に貸し出し、雪生活の困難解消と住民の共同作業支援を行うため。			地域創造支援事業:駅東口の賑わいに関する目標及び指標、秋田杉の活用に関する目標及び指標を追加。 事業活用調査:影響なし まちづくり活動推進事業:低未利用地の活用促進に関する目標及び、雪生活の向上に関する指標を追加。					
	交付期間の変更	当初	平成17年度～平成21年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-						
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	駅東西間移動環境の満足度	%	32	H16	50	H20	モニタリング	74	○	あり なし	自転車利用に対応した施設が整備され、自転車利用者の利便性が大きく向上しており、利用者からも高い評価を得ることができた。	-
	指標2	安全性、防災性の向上	m	55,000	H16	84,000	H21	100,720	○	あり なし	秋田駅第三地区の進捗が順調に進められ、事業進捗に伴い地区内の安全性・防災性は着実に向上している。	平成23年3月	
	指標3	秋田駅東口の通行量	人	11,464	H17	17,000	H21	14,676	△	あり なし	● アルヴェの入館者数が年々増加しており、また、ほぼろーどイベント・事業開催数が増加していることから、秋田駅東西間の賑わいが向上している。	-	
	指標4	土地利用の利便性の向上	m	5,500	H18	0	H21	2,815	△	あり なし	● 秋田駅西北地区の土地区画整理事業の進捗が遅れ、目標値の達成には至らなかったものの、事業進捗に伴い地区内の土地利用の利便性は着実に向上している。	平成23年3月	
	指標5	雪生活の向上	%	0	H18	50	H21	76	○	あり なし	地域住民に除雪機を貸し出したことで、迅速かつ細やかな除雪が可能となった。	-	
	指標6	秋田杉を活用したまちづくりへの取組みに対する満足度	%	45	H18	67	H21	87	○	あり なし	JR秋田駅西口駅前広場バス停における、秋田杉を活用した修景整備を行い、利用者からも評価を得た。	-	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1	秋田拠点センター・アルヴェの入館者数	万人/年	238	H17			336			官民連携のもと、各種イベント等を開催し、駅周辺施設の利用拡大と賑わい向上に取り組むとともに、まちづくりの担い手育成講座を開設し、まちづくり活動体制の仕組みづくりを進めた。	-	
	その他の数値指標2	秋田駅東西連絡自由通路(ほぼろーど)のイベント・事業開催数	件/年	220	H18			365			秋田拠点センター・アルヴェでのイベント開催やほぼろーど駅西側の商業施設との連携による、駅東側の周遊を促すイベントの企画・開催が増加した。	-	
	その他の数値指標3	集合住宅の建築数	戸	0	H14			129			土地区画整理事業が整備されたブロックは、利便性や周辺環境が向上したことから、いち早く民間マンションの建設が進められ、地区内人口の増加につながった。	-	
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 土地区画整理事業地区内では、事業による住環境の整備が進むとともに、高層マンションが完成するなど土地の高度利用が進んでいる。 秋田駅西口駅前広場バス乗り場における秋田杉の活用等、民・産・学・官の連携により事業実施したことで話題性を持たせることができた。市民や来街者から高評価を得ることができた。 												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	事業計画や実施状況については、公共事業再評価審査会や区画整理審議会、地域の連絡協議会の会合等で協議したほか、産学官共同による設計やフォーラムでの意見交換の内容は、その都度計画改善に反映させていたため、モニタリングは実施しなかった。			都市再生整備計画に記載し、実施できた				秋田商工会議所が3年毎に実施している通行量調査等を活用し、事業効果の発現状況や目標値の妥当性などを確認する。				
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				●				
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●				
住民参加プロセス	・秋田駅周辺連携協議会の立ち上げ、イベント等の開催			都市再生整備計画に記載し、実施できた				●					
	・市民参加のまちづくりフォーラムの開催			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				●					
	・まちづくりの担い手育成講座の開催			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●					
持続的なまちづくり体制の構築	・市民ボランティアによる秋田拠点センター・アルヴェの運営サポート			都市再生整備計画に記載し、実施できた				●					
	・市民パフォーマーとの連携			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				●					
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●					

